

「公共施設のあり方検討委員会」答申後の取組状況等について

群馬県立東毛青少年自然の家

1 建設目的

青少年が、豊かな自然環境の中で、自然とのふれあいや仲間との人間的な関わりを深めるとともに集団生活を通して社会性、規律の大切さ、奉仕の精神を学び、創造的な人間性を育むための教育施設として設置された。

2 沿革

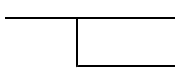
- ・昭和53年3月 群馬県立東毛青少年自然の家建設事業県議会で議決
- ・昭和53年8月 県と蕨塚本町とで覚書交換
- ・昭和54年1月 蕨塚本町用地買収完了
- ・昭和54年4月 起工式
- ・昭和54年10月 自然の家設置及び管理に関する条例改正案議決
- ・昭和54年11月 「東毛青少年自然の家」開所
- ・平成11年4月 (財)群馬県青少年会館へ管理委託
- ・平成18年4月 地域機関化
- ・平成22年4月 「東毛青少年自然の家」に名称変更
- ・平成23年3月 大規模改修工事(トイレ、地下通路、プレイホール床等)

3 建設概要

- ・敷地面積 68,358㎡(太田市より無償借受)
- ・延床面積 2,790.78㎡

管理棟 R C 2	B 1	1,249.35㎡
宿泊棟(含通路)	R C 1	1,018.79㎡
プレイホール	S R C 1	385.24㎡
その他(屋外炊事場、屋外トイレ)		137.40㎡
- ・駐車場 乗用車50台
- ・テントサイト 10箇所(現在整備中)
- ・総事業費 202,576,000円

4 組織体制(平成25年度 26.1.1現在)

- ・総人員10人(正規職員8人、臨時職員2人)
- ・所長 

管理係	3人、臨時2人	(増減なし)
指導係	4人	(増減なし)
- ・現在の運営方法 直営

5 経費及び利用者数

(単位：千円)

区 分	H22決算	H23決算	H24決算	H25予算
歳 入 (①)	3,810	5,825	4,690	3,891
使用料	2,136	3,886	2,821	2,063
雑 入	1,674	1,939	1,869	1,828
その他収入				
歳 出 (②)	84,070	84,216	78,756	78,949
常勤職員	67,798	69,077	63,997	65,935
非常勤職員	1,509	1,741	1,786	1,799
管理・事業費	14,763	13,398	12,973	11,215
歳入・歳出の差額(①-②)	-80,260	-78,391	-74,066	-75,058
歳入・歳出の主な増減理由	H23年度は震災の関係で、栃木県や茨城県等の県外利用 団体が増加したため。			
備 考	歳出には本課執行分(工事費等)を含まない。 平成25年度は予算額を計上			

(単位：人)

	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
利用者数(延べ)	26,946	31,732	30,405	30,419
幼稚園、保育園等	2,523	2,621	3,337	2,830
小学校	12,512	14,909	14,246	14,855
中学校	179	1,180	707	487
高校	596	520	775	502
大学	173	127	16	128
その他の学校 (特殊学校等)	679	1,032	706	1,357
その他青少年団体	5,218	7,999	6,707	5,726
その他 (企業、主催等)	5,066	3,344	3,911	4,534

【利用者数の推移】

	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
団体数	2 8 9	3 5 7	3 3 5	3 3 1
実人数(人)	1 4, 3 4 2	1 7, 2 2 2	1 6, 4 4 4	1 6, 1 4 6
延人数(人)	2 6, 9 4 6	3 1, 7 3 2	3 0, 4 0 5	3 0, 4 1 9

※H22は東日本大震災の被災者受け入れ体制の影響により、利用者が減少した。

※H23は東日本大震災の影響により、県外団体の利用が増加した。

6 使用料

(1) 使用料・宿泊料（H26.3.31現在）

区 分		昼間使用料	夜間使用料
第1研修室	甲 類	300円	400円
	乙 類	600円	800円
第2研修室	甲 類	200円	300円
	乙 類	400円	600円
第3研修室	甲 類	100円	200円
	乙 類	200円	400円
プレイホール	甲 類	300円	400円
	乙 類	600円	800円
和 室	甲 類	一人一泊につき300円（500円）	
	乙 類	一人一泊につき600円（800円）	
	県 外	一人一泊につき800円（1,000円）	
キャンプ場	甲 類	一人一泊につき100円	
	乙 類	一人一泊につき200円	
テント	甲 類	一張り一泊につき200円	
	乙 類	一張り一泊につき400円	

※県内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、中等教育学校、特別支援学校が教育活動として使用する場合は使用料・宿泊料全額免除

※県内に在住し、又は県内の学校に通学する高校生以下の方が使用する場合は宿泊料免除（キャンプ場は整備中のため、貸し出しは行っていない。）

※障害者手帳を持つ方及びその介護者1名は宿泊料免除

※（ ）の額は、11月1日から3月31日までの暖房使用料込みの額

(2) 食事代（H26.3.31現在）

区 分	朝 食	昼 食	夕 食	合 計
未就学児	430円	490円	660円	1,580円
小学生	480円	540円	760円	1,780円
中学生以上	510円	570円	800円	1,880円

7 群馬県公共施設のあり方検討委員会の検討結果を受けた改善策について

平成21年度「公共施設のあり方に関する最終報告書」によると、当施設は、本県における野外体験活動や集団宿泊活動の主要施設として多くの小学生に利用されている。また、自主性や社会性を培い、青少年の健全育成を図る上で大きな役割を果たしており、教育的効果も高い施設と考えられる。（3施設は）県内にバランスよく配置され、広域をカバーしながら、各地域の青少年教育の中核的な役割を担っており、施設の必要性は高いとして、継続すべき施設とされた。ただし、利用状況が一定の時期に偏らざるを得ないことから、年間を通じての稼働率を高める方策について検討すべきとされた。そこで、当施設では、青少年教育施設としての機能充実と課題解決に向けて、以下の目標達成に向けた取り組みを実施してきました。

(1) 検討課題

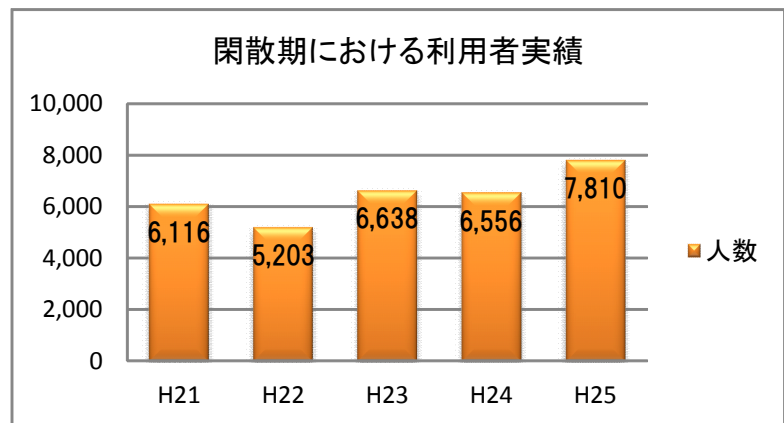
- ① 施設を有効活用するための閑散期（4月、9月、12～3月）における利用促進
- ② 使用料の設定について、使用時期や使用目的による差別化の実施
- ③ 学習効果を高めるための近隣県有施設との連携による学校利用プログラムの開発
- ④ 主催事業や各種体験プログラム充実に向けたボランティアとの協働、地域の団体等との連携
- ⑤ 施設・設備にかかる計画的な改修

(2) 目標期間 平成21年度～平成25年度（5年間）

(3) 具体的な取組

- ①施設を有効活用するための閑散期（4月、9月、12～3月）における利用促進

・閑散期においては、企業の新入社員研修や大学のゼミ、サークル活動等の利用促進を図るため、訪問したりWebページに具体的活動事例等を紹介した「企業のための利用案内」、「大学・短大等のための利用案内」のページを新たに追加掲載し、利用者の利便を図るなどPR活動を行った。



※H22は東日本大震災の影響により利用者が減少した。

また、閑散期の利用促進として主催事業を組み入れたり、登山やハイキングの利用促進を図るなど積極的な取組も行っている。さらに、閑散期を利用して中学校生徒を対象とした「出前うどんづくり」を実施している。

- ・施設利用者や登山、ハイキング利用グループ等の利用促進

施設利用者や一般登山者の便宜を図るために、自然の家周辺の9つの登山コースの状況、所要時間を表示した地図やハイキングに活用できる学習パンフレット「八王子丘陵の歴史と文化を訪ねて」（古墳、石仏、城跡、石切場等）を作成、配布するとともに登山道の整備や案内板などを設置し、利用促進に努めた。



また、近隣の幼稚園や保育園に茶臼山（標高294m）登山案内のチラシを配布し、登山やハイキングを呼びか

「地元保育園児の登山の様子」

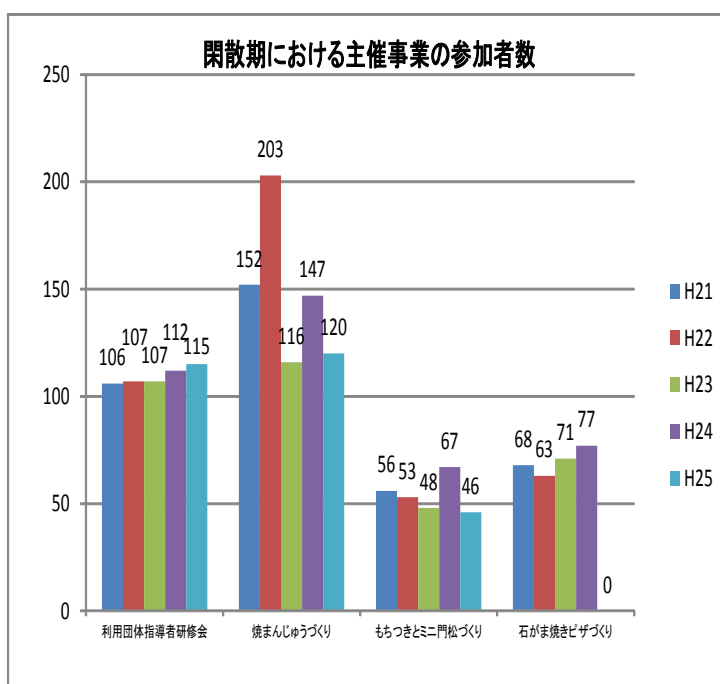
けた。さらに、園児の励みとなるよう「登山証明書」を発行し、野外活動を奨励した。

・主催事業の実施

閑散期である4月に主催事業の「利用団体指導者研修会」（前・後期）、12月に「焼まんじゅうづくり」（2回）、「もちつきとミニ門松づくり」、2月に「石がま焼きピザづくり」を実施し、ねらいに即した自然体験活動推進及び親子体験活動推進プログラムの充実に努めた。

また、Webページにお知らせやトピックス欄を設け各種事業の案内や事業結果の報告を行うとともに、上毛新聞をはじめとする広報20社や地元「藪塚行政センターだより」に告知や記事の掲載を依頼し、広報

活動を促進することで、参加者の確保に努めた。県民の日記念事業として、毎年当所を開放した「とうもうオープンデー」を開催し、広く県民や地域住民に自然体験活動の良さを体験していただいている。



主催事業「焼まんじゅうづくり」



主催事業「もちつきとミニ門松づくり」

②使用料の設定について、使用時期や使用目的による差別化の実施

- ・青年の家と少年自然の家の料金体系を一本化
- ・免除区分の見直し

学校における教育活動で施設を使用する場合は全額免除

団体指導者等の宿泊料及び施設使用料は徴収

- ・冬期(11月～3月)の宿泊料に200円を加算

③学習効果を高めるための、近隣県有施設との連携による学校利用プログラムの開発

子どもたちの学習効果をより高めるため、近隣県有施設（ぐんま昆虫の森）の他、連携可能な近隣施設について調査し、学校利用プログラムを作成した。県外の学校、利用団体に情報提供をするとともに、学校利用団体に対し、指導者研修会や下見、打ち合わせ等の資料として紹介した。

	市町村名	施設名
連携可能施設	太田市	三日月村、ジャパンスネークセンター、ぐんまこどもの国、藪塚本町歴史民俗資料館
	桐生市	ぐんま昆虫の森
	みどり市	岩宿博物館、岩宿遺跡、富弘美術館、小平の里(親水公園・鍾乳洞公園)、大間々博物館(コノドント館)
連携可能企業	太田市	富士重工(スバルビジターセンター)

《具体的な学校利用プログラム例A（1泊2日の場合）》

	1日目	2日目
午前	自然観察 (ぐんま昆虫の森)	野外炊事 (うどん・ピザ・カレー)
午後	ポスト探しゲーム (登山・ハイキング)	学校着
夜間	キャンプファイヤー (キャンドルファイヤー)	

《具体的な学校利用プログラム例B（2泊3日の場合）》

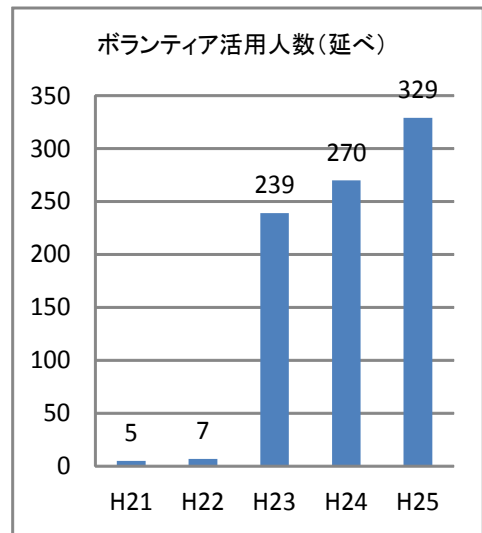
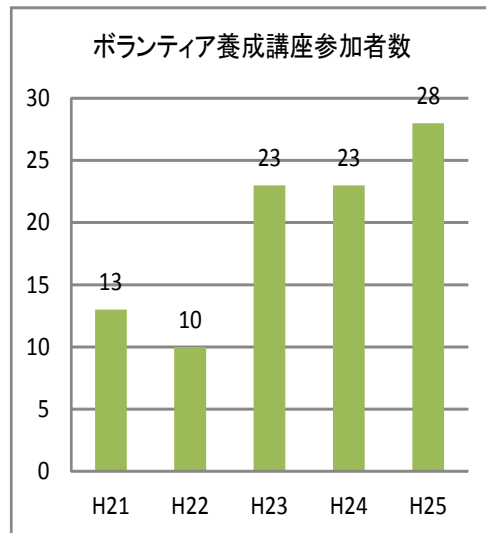
	1日目	2日目	3日目
午前	施設見学 (富士重工)	野外炊事 (うどん・ピザ・カレー)	施設見学 (岩宿博物館)
午後	ポスト探しゲーム (登山・ハイキング)	クラフト (MFS等)	学校着
夜間	キャンプファイヤー	レクリエーション等	

※ クラフト(MFS等)は、マイフォーク、マイスプーンや竹とんぼを作ります。

※ は、自然の家での主な活動

④ 主催事業や各種体験プログラム充実に向けたボランティアとの協働、地域の団体等との連携

・ボランティア養成事業「青少年ボランティア講座」や「青少年ボランティア体験」の内容充実及び県内の大学や高校等とのネットワーク強化及び拡大により、施設ボランティアの確保と養成に努めた。



・ボランティア団体のネットワークの強化、拡大を進めるとともに、従来からの協力団体である群馬県キャンプ協会の他、新たに国立赤城青少年交流の家や民間のチャウス自然体験学校と連携協力体制を築いた。



主催事業「青少年ボランティア講座」
 講義：ボランティアの意義・目的
 講師：チャウス自然体験学校
 代表 加藤正幸氏



主催事業「ぐんまキッズアドベンチャー」
 実技：ネイチャーゲーム
 講師：国立赤城青少年交流の家
 チーフ 高瀬宏樹氏

⑤ 施設・設備にかかる計画的な改修

開所以来36年が経過し、老朽化に伴い各所の修繕が必要である中、平成22年度に大規模改修工事を行った。工事内容については下記のとおりである。なお、改修工事後利用者からは施設がきれいになって利用しやすいとの声を多くいただいている。

- * 工事依頼主管課 建築住宅課
- * 工事総経費 約44,730,000円
- * 工事期間 平成23年1月6日～平成23年3月6日

*工事請負会社 (株) 後藤建設 (太田市)

*主な工事内容

- ・全トイレ
全て洋式 (宿泊棟男女トイレには障害者スペースを設置 (シャワー付き))
- ・プレイホール
床、下駄箱新設、入口ドア新設、給排扇新設 (4箇所)、旗掲揚巻き上げ機及び旗ポール新設、ステージ新設 (可動折りたたみ式)、クライミングウォール新設 (補助マット含)
- ・地下通路
祖集桝及び配管の新設 (WC へ接続)、1階常閉特定防火扉新設 (引き戸)、階段部分手摺り新設、除湿器新設、塗装 (壁、天井)、階段部分クロス張り替え
- ・管理棟
ロビー等クロス張り替え (重ね貼り)
- ・宿泊棟
各部屋 (入り口扉、ふすま、屋押入ビニールクロス) の新設、各部屋の棚塗装、宿泊棟階段手摺り新設

大規模改修工事についてはH22年度に行ったが、それ以外の主な施設整備 (工事及び修繕等) については下記のとおりである。なお、業者による館内清掃及び館内消毒は毎年定期的に行っている。

<業者による工事及び修繕等>

H21年度：脱衣所の床張り替え及び壁面の塗装工事

H22年度：厨房自動食器洗浄機入替え

屋外炊事場用ベンチ70脚設置 (県産材活用推進事業)

館内ドアクローザー交換作業

H23年度：第2浴室タイル一部補修作業

ボランティア室床張り替え工事

KDDI通信感度向上のためのアンテナ設置

H24年度：掛け布団入替え

火災報知器増設工事

厨房排気ファンベルト交換

厨房冷凍ストッカー設置

野外テーブル25台設置 (県産材活用推進事業)

宿泊棟畳表替え (1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 10号室)

H25年度：第1浴室タイル補修作業

炊事用テーブル17台設置 (県産材活用推進事業)

<職員による工事及び修繕等>

H21年度：宿泊棟掃除機設置

H22年度：ウォータークーラー設置

焼きまんじゅう小屋屋根取付け作業

ケンタ薪小屋補修作業

H 2 3 年度：トーテムポール補修作業

放射線除染作業（埋め戻し作業）

H 2 4 年度：駐車場ライン引き作業

落葉プール製作作業

第1 営火場炭置き場屋根設置作業

H 2 5 年度：野外テーブル地盤及び土留め用杭の補修作業

※記録的な大雪のため数日間に及ぶ除雪作業

<通年行っている主な整備業務>

スズメバチトラップ取付け、カマドウマ駆除、テントサイト補修、イノシシ進入防止柵補修、登山道整備、下草刈り、落葉清掃、木製テーブル等ニス塗りなど

平成25年度 東毛青少年自然の家の実施事業

事業名	事業概要	期日	参加者数
1 青少年ボランティア体験	青少年に主催事業や入所団体活動支援、施設環境整備等、ボランティア体験の機会と場を提供し、主体性や社会性を育む。	土日・祝日及び長期休業中	県内の高校生・大学生・短大生・専門学校生等 ・実人数280名 ・延人数329名
2 利用団体指導者研修会 ①②	講話や実習をとおして、利用団体引率指導者の資質向上と効果的な施設利用を促進する。	①4月16日(火) ②7月11日(木) 日帰り	学校等利用団体の指導者等 ・参加者 115名
3 青少年ボランティア講座	講義や実技をとおして地域におけるボランティアリーダー及び自然体験活動指導者を養成する。	6月29日(土) ～ 30日(日) 1泊2日	高校生・大学生・短大生・専門学校生等 ・参加者 28名
4 ぐんまキッズ・アドベンチャー	4泊5日の共同生活をとおして、子どもたちの社会性や協調性、自主性を培う。	8月7日(水) ～11日(日) 4泊5日 事前学習 7月27日(土) 日帰り	県内小学4年生～中学生 ・参加者 39名
5 親子キャンプ①②	保護者の野外活動に関するスキルアップを図るとともに、親子のきずなを一層深める。	①8月31日(土) ～9月 1日(日) 1泊2日 ②9月7日(土) ～ 8日(日) 1泊2日	県内小学生とその保護者 ・参加者 20家族 50名
6 とうもうオープンデー	野外炊事やクラフト等の諸活動をとおして、県民に自然体験活動のよさを普及、啓発する。	10月20日(日) 日帰り	家族、県民一般 ・参加者251名
7 焼まんじゅうづくり①②	郷土の食文化である焼まんじゅうづくりをとおして、県民に自然体験活動のよさを普及、啓発する。	①12月7日(土) ②12月8日(日) 日帰り	家族、県民一般 ・参加者120名
8 もちつきとミニ門松づくり	伝統文化を体験することで、子どもの感受性や自主性を育てる。また、共同作業により、親子のきずなを一層深める。	12月15日(日) 日帰り	県内小学生とその保護者 ・参加者 20家族 46名
9 石がま焼きピザづくり	ピザづくりをとおして、自然体験活動のよさを普及、啓発する。	2月16日(日) 降雪のため中止	家族・県民一般
10 ぐんまいいきチャレンジ	不登校・障がい等のある児童・生徒に野外炊事やクラフト等、体験活動の場を提供し、協調性や社会性を育む。	期日は相談の上決定する。	学校、関係団体、市町村教委適応指導教室等 ・実施回数 10回 ・参加者 472名

施設の名称	群馬県立東毛青少年自然の家
-------	---------------

1 検討対象施設の状況

(1) 管理運営コスト

区 分	24年度	23年度	22年度
歳 入(①)	4,690,321	5,825,796	3,810,255
使用料	2,820,700	3,886,700	2,135,700
雑入(光熱水費)	1,869,621	1,939,096	1,674,555
歳 出(②)	78,755,499	84,216,944	84,069,157
常勤職員	63,996,628	69,077,500	67,797,744
臨時職員	1,786,060	1,741,333	1,508,483
8 報償費	30,000	30,000	35,000
9 旅費	49,034	104,342	63,219
10 交際費	5,000	5,000	
11-2 その他需用費	9,768,350	8,757,311	9,122,587
12 役務費	571,968	742,442	509,468
13 委託料	1,803,054	1,710,491	3,186,256
14 使用料及び賃借料	82,320	82,320	82,320
15 工事請負費	461,685	383,250	552,930
18 備品購入費	176,400	1,555,355	1,150,150
19 負担金	20,000	20,000	61,000
27 公課費	5,000	7,600	
歳入・歳出の差額(①-②)	-74,065,178	-78,391,148	-80,258,902
歳入・歳出の主な増減理由	【歳入】 23年度は、震災の関係で栃木、茨城県等の県外の利用団体が増加したため。		

(2) 職員(各年度4月1日現在)

	24年度	23年度	22年度
常勤職員	8	8	8
非常勤職員	2	2	2
合計	10	10	10

(3) 施設の利用状況

区 分	24年度	23年度	22年度
年間利用者総数(人)	30,405	31,732	26,946
有料利用者数(人)	6,962	9,237	5,952
無料利用者数(人)	23,443	22,495	20,994
稼働率対象施設(設備)			
利用者の主な増減理由		震災の関係で栃木、茨城県等の学校利用が入り利用者が増えた。	